

お雛さん

No.32



雛祭り (ひなまつり)

朝日保育園

女の子のすこやかな成長を
祈る節句の年中行事です。

ここ朝日保育園では、お雛
さまと色紙で作られたお雛さ
まが二組飾られていました。

楽しそうにあやとりをして
いる園児の笑顔に心が癒やさ
れます。

四月になれば農作業も多忙
になりますが、この子たちの
ように、笑顔を忘れずに仕事
ができれば楽しくなれそうで
す。



女性農業委員対談 女性の視点から農業を考える



近年、多くの場面で女性の活躍が期待され、女性の能力を最大限活用しようという動きが高まっています。農業委員会でも委員に女性が加わるなど、徐々にではありますが増えてきています。今回は、鶴岡市で活動・活躍している女性農業委員4人にお集まりいただき、これからの展望についてお話を伺いました。



〈出席者〉

- 鈴木 ゆり委員
- 小南美弥子委員
- 重松 美鈴委員
- 伊藤由紀子委員
- 会長 三浦 伸一
- 広報編集委員長 鈴木 裕
- 副委員長 清野 吉喜

責任の重さを実感

会長 第4期農業委員がスタートし、早4ヶ月となりました。

最初に、農業委員になっただきつけと就任後の感想をお聞かせ下さい。

重松 東京からUターンし、就農して10年になります。農業に従事する中で、日頃から周囲の方々にお世話になっていました。そんな中で声をかけていただき、地域のために役に立つことがあればと思ひ引き受けました。同世代で農業をやっている人が少なく悩んでいます。委員になって地域の方との出会いが増え、いろいろなお話を聞くことができました。それゆえ、農業委員の責任の重さを実感しています。

小南 JA女性部で活動している中で、



三浦 伸一 (会長)

会長や女性理事からの強い薦めがありました。農業歴30年になりますが、もっと勉強したい、自分のできることがあればやってみたいと思ひました。様々な会合に出ることが多くなり、日中の農作業ができないことが多くなりましたが、夫が協力的で快く送りだしてくれます。それだけでもとてもありがたき思っています。

伊藤 私は、地域の農業委員の方に声をかけていただいたのがきっかけですが、以前、青年農業士を5年ほど努めさせていただいたこともあります。我が家の農



伊藤 由紀子 (朝日地域)

業をどうしていかうかという感覚から、農業委員になって、朝日の中山間という条件のもと、子どもたちに農業をどう伝えていけるか、どんな形で残していくかということなども考えるようになりました。

鈴木(ゆ) 温海の中山間地域の兼業農家です。農業委員自体を知らなかった私が、当時女性の登用促進が図られるようになっていた3年前にお話をいただいたことがきっかけでした。



小南 美弥子 (鶴岡地域)

家事や介護など家庭の事情もあり、悩むこともありましたが様々な活動を通して勉強をさせていただきました。それを還元すべきと考え今回2期目をやらせていただいています。議会推薦で新たに3人の女性が加わったので、2期目として

女性陣を引っ張っていく立場でもあると気合を入れてがんばっていかうと思っております。

新しい感覚で

会長 女性委員の役割や可能性、そしてやってみたいことはありますか。

小南 農業委員は農地の番人と教えられました。その自覚は大切だと思えます。婚活や食育活動も農業委員の活動として取り組んでいきたいと思えます。

重松 まだまだ、どんな仕事があるのか未知数ですが、耕作放棄地の情報など、今まで認識していなかったことなど、とても視野が広がったと思っております。家族内でも農業を自分の仕事として働きたいがあるものにしていきたいと思っておりますし、そのためには、家族



重松美鈴 (櫛引地域)

経営協定の推進が重要だと思えました。

鈴木(ゆ) 地域の方から農地や年金の相談があると農業委員としての自覚が生まれると思えます。女性の視線として意見等を求められることが多いですが、何にでも新しい感覚で対応していきたいと思っております。

意識改革

会長 鶴岡市では行動する農業委員を目指し、3つの専門委員会があります。農業振興・担い手専門委員会、営農専門委員会、食育・地産地消専門委員会があり、女性農業委員は食育・地産地消専門委員会に所属し活動しています。

「レシピコンテスト」や保育園での「おにぎり教室」などを開催してきましたが、今後も活躍が楽しみです。一緒に活動する男性委員に望むことはありますか。

鈴木(ゆ) 食育・地産地消専門委員会の視察研修で福井県の小浜市に行ったことで男性農業委員が変わった



鈴木ゆり (温海地域)

と感じました。それまで工プロンもしたことのない人も家での家事の分担という意識が芽生えたのだと思います。お互い歩み寄るということで男女共同参画の一つですね。

チャンスを活かして

会長 農村、農業の女性に對してエールはありますか。
小南 JA女性部員も勤めに出ている人が多くなり農業の話がなかなか出来なかつたのですが、最近では帰農女性が増えてきて農業に關しての話が出来るようになってきたのがうれしいです。

伊藤 我が家は兄と弟がいるなかで私が就農しています。機械は何でも運転できますよ。重いものを持つなどの重労働には、男性の力を借りなければならぬと

きもあります。最近男女差はあまり感じません。男性と女性は発想は違いますがやれることは同じだと思います。農業は確かに大変な時代に来ていますが、どの仕事も同じ。女性や農業に対する支援策も徐々に整ってきているのでチャンスはまだまだ転がっていると思います。今まで工業や商業でやってきたことを農業でやるイメージでしょうか。

地域への希望

会長 地域の今後にどのような希望をもっていますか。

重松 米粉加工をやっていますが、米粉製品にはまだまだ可能性が有ります。また、庄内には平場から山間地まで農産物がたくさんあるので、可能性にあふれた土地柄です。今後鶴岡に新たなヒット商品を作ることができれば農業・商業の発展に繋げていけると思っています。

伊藤 農業が厳しい時代ですが、やる気のある人は農

業でのびていくと思えます。何かをしたいというビジョンをしっかりと持っていければ農業で成功するだろうと思えます。

鈴木(ゆ) 温海地域の高齢化はどんどん進み、中山間農業はどんどんすたれてきています。

歯止めをかけるべく女性農業委員として情報を周知させるのも仕事です。また、消滅の危機にある集落を何とか残したいと思っております。

会長 農業者の意識高揚にも協力いただきながら、これからも共に頑張ってください。

